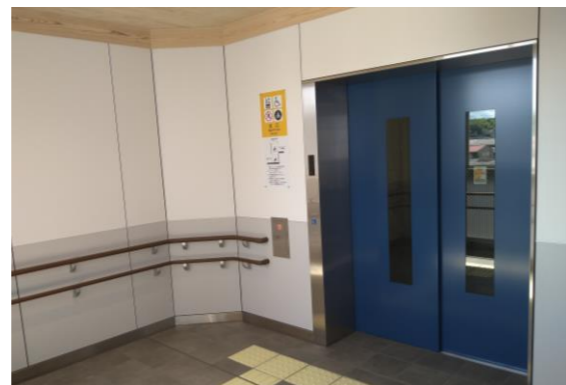
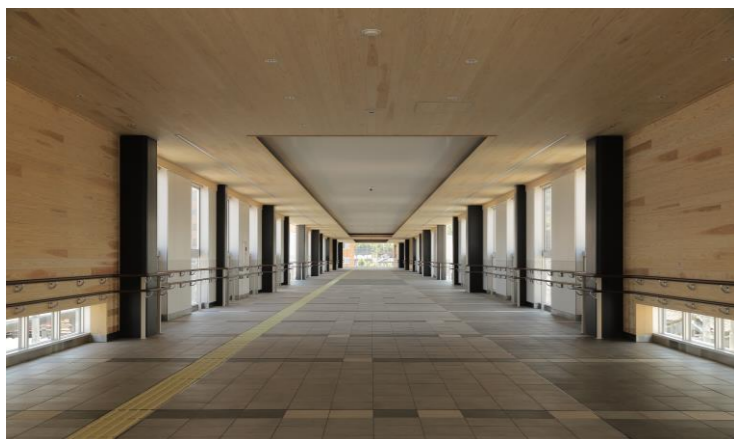


# がいなロード・駅南広場

## がいなロードの通行

米子駅の南北をつなぐがいなロード（米子駅南北自由通路）は、延長約140m、幅員約6mで24時間通行することができ、自転車も押して歩いて通行することができます。



南北にはエレベーターとエスカレーターが備わっています。エレベーターは、車いすや自転車でも利用しやすく、緊急時のストレッチャーが出入り可能な大型サイズ（30人乗）となっています。

## 眺望を楽しむ

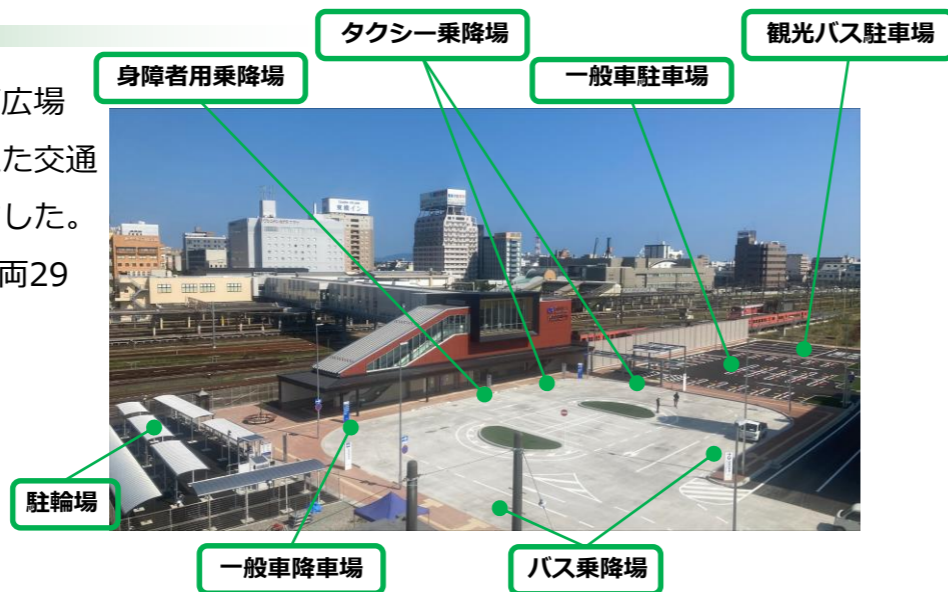
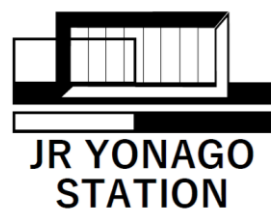
がいなロードの中央付近には展望スペースを設けており、線路を行き交う列車を眺めることができます。また、北側正面の窓からは駅前通りを見通せます。



展望スペースには眺望を楽しむために、ベンチや反射防止フィルムを設置し、ガラスに映り込みにくい黒色の内装を採用しました。

## 駅南広場

がいなロードと同時に供用開始する駅南広場には、バスやタクシーの乗降場等を備えた交通ロータリーや駐車場、駐輪場を設置しました。駐輪場は自転車142台、駐車場は一般車両29台が駐車でき、24時間利用可能です。



# がいなロード&JR米子駅新駅舎 (米子駅南北自由通路)



## 外観コンセプト

### 「豊かな自然にはぐくまれた文化を象徴する駅」

伝統・文化を受け継ぐ次世代の商都

がいなロードは、人々の集積と交流が織りなす“商都”をデザインテーマとしています。

駅正面には新たな米子の象徴として、南北の街を繋ぐ架け橋となる都市軸を長大なフレームによって表現しています。



# 内観デザイン

1902年に境～御来屋間に開通した「山陰鉄道」を発祥とする米子駅。この駅は山陰地方の玄関口として、多くの方に愛されてきました。がいなロードや新しくなった米子駅では引き続き多くの方に親しんでいただけるように、山陰地方の歴史や米子の魅力を表現するデザインを採用しました。

## 1F がいなロード北口トイレ

江戸時代初期から商都として発展してきた米子市における、古き良き情景、街並みを思い起こされるようなデザインです。

## 2F やくもラウンジ

山陰地方の木材を活用した家具・インテリアで、ゆったりと温かなひとときを演出します。2024年春以降導入される新型「やくも」を踏まえ「やくもラウンジ」と名付けました。家具のひとつひとつが新型「やくも」を連想させるデザインとなっています。

## 2F 改札内トイレ

2024年にデビューする新型「やくも」のボディカラー（やくもブロンズ色）と、シートに使われている柄（和柄）をトイレ内の壁や扉にあしらいました。新型「やくも」をご利用のお客様と米子駅とを、デザインでシームレスに結びつけます。



## 2F ヨネギーズ埋木

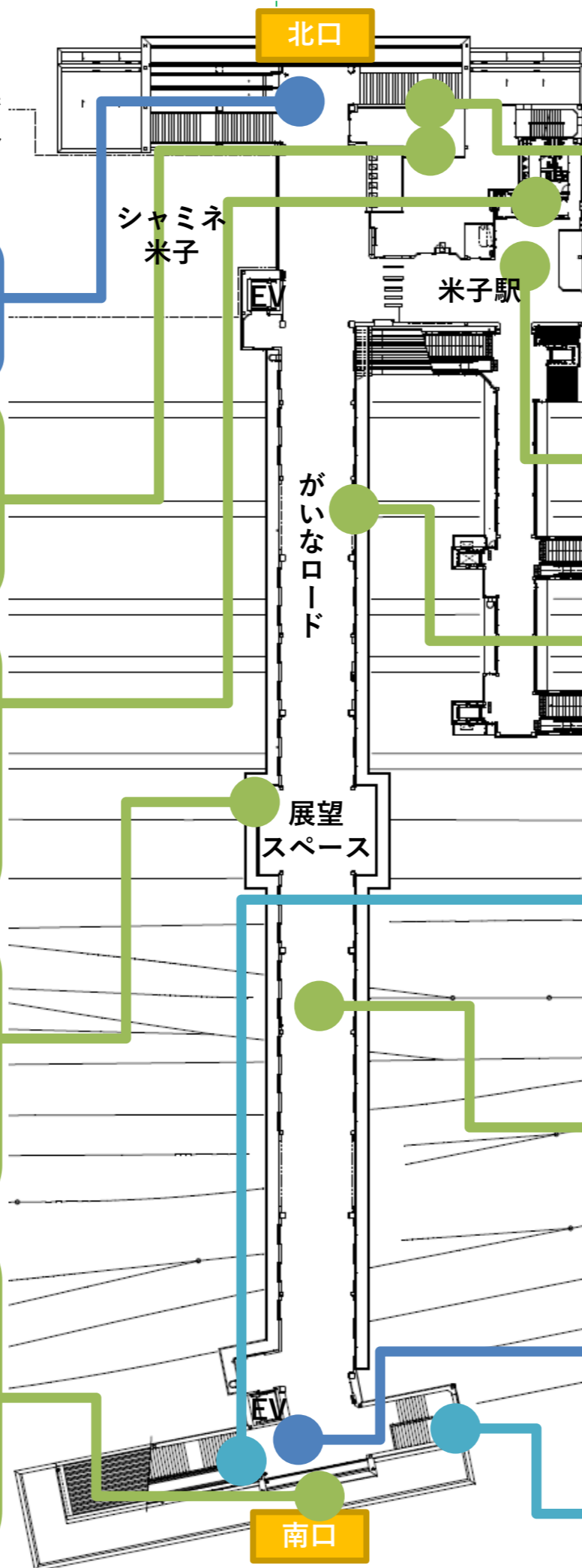
天然の木には必ず「節」が存在します。節は木材の弱点となるため、丸くくりぬいて別の木を埋めます。それが「埋木」です。米子駅・がいなロードの智頭杉にも、埋木を施しています。よく探してみると、ヨネギーズのカタチの埋木を発見することができるかもしれません。



米子市公式キャラクター「ヨネギーズ」

## 2F 衝突防止マーク

衝突の恐れがあるガラス面には、1.1mと1.4mの高さに銀色の衝突防止マークがつけられています。約80個のマークはすべて同じに見えますが、よく見るとそのうち6個だけ、米子駅で乗車できる特急のヘッドマークがデザインされています。



## 2F 大山ガラススクリーン

旧米子駅改札上で、昭和38年から58年間にわたり駅利用者を見守ってきた陶板レリーフを再現しました。中国地方最高峰の大山をデザインしたレリーフ形状を3Dスキャナを使って正確に記録し、シートフィルムで表現しました。



## 2F 弓浜緋・強力米ベンチ

がいなロードのファザードをモチーフにしたベンチです。鳥取県産の智頭杉で作りあげました。座面には弓ヶ浜地方の伝統的工芸品「弓浜緋」を敷き広げ、鳥取県固有の酒米「強力米」をあしらって、レジンで大切に包み込みました。



## 2F 智頭杉パネル

天井や壁を美しく装っている天然木は、鳥取県産の智頭杉です。四季を通じて寒暖差が激しい気候風土と、伝統的な育林技術により育まれた杉材は、木目が緻密で全国的にも評価の高い上質な木材とされています。

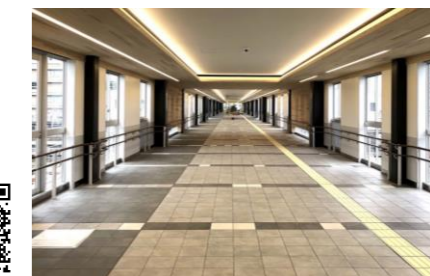


## 1F～2F 米子弁エスカレーター

エスカレーターのアナウンスをよくお聞きください。がいなロードが大好きなエスカレーターは、時々米子弁を話してしまうかもしれません。米子弁は、鳥取県西部地方の方言で、優しくやわらかな表現が特徴です。

## 2F 自由通路床タイル

南北をつなぐ自由通路は全長約140m。床には磁器タイルを採用しました。タイルの模様には、モルス信号が埋め込まれており、米子駅の記憶を継承しています。



詳細はこちら⇒



## 1F がいなロード南口トイレ

加茂川沿いの土蔵屋敷の繁栄を礎とした近代商都米子の発展の歴史を感じとれるデザインです。現代に残るレンガ調の建物と、温かみのあるガス灯をモチーフにしました。

## 1F～2F 大山階段高欄

階段高欄は米子から見る大山をイメージした断面でしつらえました。